

全ての在来線区から 落石災害を無くそう!

高山線落石について業務委員会を開催

名古屋地本は10月9日、東海鉄事と申第2号について業務委員会を行いました。これは、今年8月23日、高山線の飛水峡～上麻生間において列車が落石と衝撃するという、1996年の特急「ひだ」落石衝突・脱線事故を想起させるもので、一步間違えば大惨事に至ったかも知れない事故に対するものです。

私たちは、全ての線区において

1. 落石を発生させないこと＝発生源対策
2. 落石が発生しても軌道敷地外でくい止めること＝落石止擁壁、落石覆い工
3. 落石を含む障害物の侵入に対し直ちに列車を止めるための対策＝検知装置
4. 乗務員と旅客の安全を確保するための車両改善＝車両の全面補強等

以上を早急に行うことを求めます。

**落石発生源が民有地だからと言って対策を自治体任せでは遅すぎる!
岩盤の劣化は日々進行している!!**

今回の事故を受け、該当箇所には落石検知装置が設置されたとは言えるものの、根本的な対策ではありません。

また、会社は『落石発生源である民地斜面の対策については岐阜県、七宗町と協議を実施し、現在、県、町による対策が進められているとしています』と・・・。

今回の落石は岩盤の劣化により発生したものと事であり、今後いつ発生してもおかしくありません。JR東海が率先して早急に対策を進めていくことが重要だと言えます。

私たちは、乗務員と旅客の安全の為さらに要求していきます。